

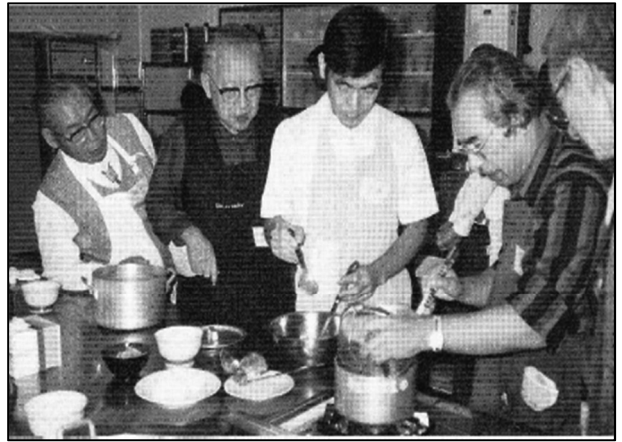
-1991~2000-

<主な出来事>

- ・育児休業法公布・施行
- ・婦人総合センターからかながわ女性センターへ名称変更
- ・北京宣言、行動綱領採択
- ・男女共同参画社会基本法公布・施行



■ 91 年、主婦による主婦へ向けたパソコン通信講座。新しい形の内職として注目され、女性の働き方にも変化が生まれた。



■ 91 年、男性日曜セミナー。男性を対象とした料理教室など3コースを開講。



■ 91 年「女性国際交流フォーラム」を開催。異なる文化や風習を持つ人々を同じ地域に住む仲間として受け入れ、共に生きていくためにはどうしたらいいのかを女性の視点から考えた。



■ 91 年、介護の専門知識、実技指導、介護の体験交流会から成る、男性のための「日曜介護セミナー」が開講。

「共生への航路」出版記念シンポジウム（92 年 12 月）



■ 92 年、戦後かながわ女性史「共生への航路—かながわの女たち'45~'90」が刊行され、パネルディスカッションが行われた。左から金森トシエ氏、江刺昭子氏、加納実紀代氏、横溝正子氏。



■ 女性史研究家もろさようこ氏による講演。

—開館 10 周年記念—'92 江の島国際会議



かながわ女性センター開館 10 周年にあたる 1992 年 11 月、「女がつくる『開発』～私たちの問題です～」と題した「江の島国際会議」が開かれた。

その中で星野館長は「『女性と開発』という言葉を知ると、日本はすでに開発された国だから、発展途上国の人々に何かしてあげるといふ意味に受け止められがちですが、ここでいう『開発』とは、人間を開発するという意味です。日本よりずっと厳しい状況の中で活動している女性たちのエネルギーをもらって、私たちの自己開発を考えたいと思い、このテーマを選びました」と語った。



■ 92 年、地域福祉活動のリーダーを養成する講座が開講された。高齢化社会を迎え、地域に市民の参加によるたすけあいのグループが生まれつつあり、こうした福祉活動を女性の社会参加の一つと考え実施された。



■ 92 年 8 月には 20 代限定の「江の島ヤングセミナー」が開講された。身近なことから女性問題や生涯設計について考えてもらう内容で大いに盛り上がり、10 月の第 2 回は一般に募集した企画スタッフが中心となって検討・実施した。

—第2回 江の島女性映画祭—



女性映画の上映と女性映画賞の表彰を行う江の島女性映画祭。90年4月から92年12月末までに日本で公開された外国映画約2000本、日本映画約500本の中から外国映画25本、日本映画5本を候補とし、受賞作品を決定した。

この年は開館10周年を記念して、ドイツからヘルマ・サンダース・ブラームス監督、オーストラリアからスールン・ホアス監督がゲストとして招かれ、日本からは岩波ホール総支配人の高野悦子氏と、作品賞を受賞した「ぼくらの7日間戦争2」の山崎博子監督が参加し、「女が映画をつくるとき」と題したシンポジウムも行われた。



■ 「かながわ女のフェスティバル'93」で開催されたアジア女性友好交流会議。中国、韓国、マレーシアから女性代表団を迎え、「女性問題と家族」をテーマに討論が行われた。



■ 97年に開催されたミドルマネジメント講座は、企業で働く主任・中堅クラスの女性を対象とし、女性リーダーの育成と資質向上を目的として開講した。



■ 99年、女性起業家交流セミナーでは、起業をしている女性や企業をめざす女性が集まり、意見交換やネットワークづくりを行った。



■ 99年、「働き方発見講座」と題して女性起業家入門講座が開催され、多くの女性が起業についての基礎的な知識の習得と能力の向上をめざして参加した。